

2. 洗タク試験方法および人工汚染布作製は、日本電気工業会標準規格、電気洗タク機洗タク性能試験法に準じた。実験条件は次のとおりである。

洗タク機：渦巻型3種

水流：反転と一方回転（渦巻）

洗タク綿布の厚さ：厚地と薄地

厚地……16s×16s, 26×58/インチ, $\frac{3}{1}$ 組織太綾カツラギ

薄地……60s×60s, 100×100/インチ, 平織晒カナキン

洗タク綿布の大きさ：大, 中, 小

大……90cm×90cm

中……45cm×45cm

小……20cm×20cm

3. 実験の精度は次のとおりである。

試作カーボン汚染布>玉川カーボン汚染布

また、試作カーボン汚染布を用いて判定した結果の一部を示せば次のとおりである。（洗浄率の大小順）

厚地》薄地

反転》一方回転（渦巻）

なお、洗タク布の大きさも明らかに洗浄効果に影響を及ぼしている。

B-2 玉川カーボン汚染布と試作カーボン汚染布の洗浄性比較（第2報）

電気洗タク機による洗浄試験

県立新潟女短大 多田 千代
佐藤 ミワ
山田 弘子
新潟大教育 ○高橋 類子

1. 前報に引き続き、家庭用電気洗タク機を使用する場合の機械作用の差異が、洗浄効果に及ぼす影響を検出する感度と精度について、玉川カーボン汚染布と試作カーボン汚染布と試作カーボン汚染布とを比較した。